BAISOUIN NEWS AOYAMA

梅窓院通信 青山

秋彼岸号

No.66
2013/09/01

5月の団体参拝で訪れたあしかがフラワーパーク。見事な藤と一緒に記念写真。

住職挨拶

梅窓院第二十五世
中島 真成

暑い夏になりましたが、みなさんお変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、参道を通り山門をくぐった左手にペットのためのお墓をつくる予定です。

青山という場所柄もあるのでしょうか、多くの檀家さんから「ペットと一緒にお墓に入りたい」、「ペットのお墓はないの」、という要望をこれまで数知れず頂いてきました。

ペットを日本語にすると、愛玩動物とか伴侶動物になるそうです。伴侶動物という言い方は初めて聞きましたが、まさに現代のペットは家族の一員、あるいはそれ以上の存在のようです。

こうしたご要望に応えてのペット専用の供養塔です。ペットと生活を共にしている方は、できれば自分と一緒のお墓に入れてあげたい、というのが一番のご希望のようですが、今の墓地埋葬法ではそうはいきません。亡くなってしまい火葬されれば、人間も動物もお骨になってしまいますが、それでも人間と動物ではお骨の扱いが大きく異なるからです。

そこで、同じお墓の中は無理でも、同じ墓苑に眠っていられるようにということで、今回の供養塔の建立となります。どこに建てるかを熟慮しての今の場所です。詳しい問い合わせは受付にお願い致します。

以前のこの挨拶でお伝えしましたが、内々の僧侶中心で先代中島真哉住職の二十三回忌法要を十一月十七日に行います。今は九州久留米の大本山善導寺のご法主となられた　台下にお導師をお願いできることになりました。　台下には赤坂浄土寺の住職時代に、先代そして私が大変お世話になっていますので、有難いかぎりです。先代もきっと喜んでくれると思います。

最後になりましたが、新本堂建立から十年が過ぎました。次の十年に向けてまた初心に戻り、気を引き締めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

法話

仏教歳時風物詩（23）

敬老の日と秋彼岸

新宿区　香蓮寺住職　勝崎 裕彦

春夏秋冬の四季のサイクルの中で生き生かされている私たちである。私たち日本人は、季節の移り変わりのとりわけ美しい日本列島で生活できるしあわせに、心から感謝せずにはいられない。

その季節の流れも、猛暑の夏を過ぎれば新涼の秋である。爽秋―さわやかな秋ということで、身心ともにさわやかに気持ちよく、食べるほうでは「味覚の秋」。食べて飲んだ身体を動かして「スポーツの秋」。また、書斎などでゆっくりとくつろいで「読書の秋」。そして、しみじみと物思いにふけって「人生の秋」。

一年という周期の中で、夏を終えて秋を迎える一つの節目・区切り目を大事に見つめて、まずは秋という季節を身心にしっかりと受けとめたい。

陰暦九月九日は重陽、五節供の一つの菊の節供である。菊の日に、今日の菊を眺めながらの菊の酒・菊花酒。重陽の宴は、菊花宴・菊酣宴などと称されるが、菊花を賞で、菊酒を愛でながら、一年の節目、季節の区切り目として、古来の人が大切に受け継いできた式日であるといえよう。

ともぐ〳〵に齢かさねて菊の賀に　（洛水）

木下洛水の句想のように、菊の節供には、人生の経験を長く多く積んでこられた高齢熟年の人の笑顔が似合う。

そうした年配の人々を思い、敬い慕う敬意・敬愛の心を寄せる日が敬老の日。かつては九月十五日を祝日として定めたが、現今ではカレンダーの具合で日にちが移動する。しかし敬老の日からの一週間、高齢者への福祉の増進と敬老精神を広く発揚することを願い念ずる思いは、ますます強め深めなければならないことであろう。

年寄の日と関はらずわが昼寝　（友二）

庶民の視点に立って、その哀歓をおだやかに写し取ってきた石塚友二の句であることを前提に、私は老いた人のゆったりとした午睡に静かな心を寄せたい。悩み苦しみ、思い煩いを離れて、のんびりとしたその空間と時間に、私は心を寄せたい。

さて九月はお彼岸の月ということで、ここでは秋彼岸・後の彼岸時分の孝養という視点から記しておきたい。その孝養も、敬老の日の一週間を承けての彼岸の一週間であるから、お年寄りへの気配り、心配りによくよく心をいたした六波羅蜜行実践の一週間としたいものである。

①布施―年上の人に温かさややさしさをほどこす
②持戒―「長幼の序」を覚ってよくいましめる
③忍辱―高齢者をいたわってともどもに我慢し合う
④精進―高齢者を励まして一生懸命に努力する
⑤禅定―静かにおだやかに心を落ち着け合う
⑥智慧―真実を見きわめることができるように正直に誠実を尽くし合う

以上は、彼岸の六波羅蜜行を敬老精神と重ね合わせた私の生活目標である。

濡れつづく母の爪革秋彼岸　（明子）

中村明子の母へのいたわりの目は、爪革草履の雨の雫に注がれている。

一年をどのように過ごして行くかということについては、人それぞれにさまざまな考え方があろう。私は、四季の変化の美しい日本列島で生き生かされて行くことをこよなく慈しんで、季節の変化に対してみずみずしく敏感に反応して、その節目・区切り目の一季一節一候をしっかりと確認して、身心にはっきりと自覚しながら生活して行きたいと思っている。

（大正大学学長）

六月・七月の行事報告

盂蘭盆会法要
7月13日（土）

安心できる、私のエンディングについて
6月22日（土）

多くの聴講者に大好評だった二村祐輔氏の講座。

第59回 念仏と法話の会
6月12日（水）

開山忌法要・能楽奉納
6月8日（土）

法然上人を祀る祖師堂で奉納する橋本忠樹様。

郡上おどりin青山法要
6月29日（土）

法要後に本堂で郡上おどりを奉納する郡上おどり保存会の皆様。

秋彼岸法要

九月二十三日（月）

地下2階　祖師堂にて

彼岸寄席　午後1時～

三遊亭 歌る多 師匠

三遊亭 歌る多 師匠 プロフィール

1962年荒川区生まれ。
1981年三遊亭圓歌師匠に入門。
1993年女性初の真打ち昇進(女流枠)。
2000年女流枠撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。
寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。
2010年6月より落語協会理事・演芸家連合常任理事就任。

三遊亭 歌（うた）りん さん

三遊亭歌之介に入門。2013年2月より前座に。

秋彼岸会法要　午後2時～

※ご法要の受付は１階観音堂にてお済ませ下さい。

■塔婆申込み方法…同封のはがきを使い9月15日必着でお申込み下さい。塔婆回向料は1本7000円とさせていただきます。

■お支払方法……同封の振込用紙で郵便局にてお支払いいただくか、当院受付までお持ち下さい。（銀行・コンビニでのお支払いは出来ません。）

お檀家様へお願い

●お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用下さい。

●9月20日～26日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせて頂きます。ご協力お願い致します。

◆第4回 秋彼岸写真コンクールのお知らせ◆

応募作品を観音堂（1階）に展示致します。応募締め切りは9月15日必着です。ご応募お待ちしております。

秋彼岸に寄せて

先日テレビを見ていますと、面白い場面がありました。疲れたお父さんが仕事から帰ると、中学生の息子がソファで寝てテレビを見ています。それを見たお父さんが、言いました。「ごろごろ寝てないで少しは勉強しろ」子供が答えます「嫌だよ」「嫌だよじゃなくて、勉強しろよ」お父さんも負けていません。「じゃあ聞くけど勉強するとどうなるの？」「それは、勉強すればいい学校に入れるじゃないか」「いい学校に入ったらどうなるの？」「いい学校に入ったらいいところに就職できるんだよ」「いいところに就職できたら？」「楽ができるんだよ」すると子供がいいます「今が楽なんだよ!!」と答えたそうです。ある落語での小話でした。日常的な出来事を、おもしろ可笑しく落語は私たちに笑いを提供してくれます。梅窓院でも、お彼岸寄席として毎年恒例となってまいりました。笑い声が堂内に響き渡り、参詣者の心が一つへと。そして厳かなお彼岸法要へ誘われます。もともと落語はお坊さん、それも浄土宗の安楽庵策伝という方が、日頃の面白話を法話に取り入れたことから始まったそうです。策伝上人の著書。睡眠中の人も目覚めて笑い転げたという『醒睡笑』という本が、当時大流行したそうです。難しいお経も、笑いのお陰で自然と教えを伝えられたそうです。現在の落語にも人生のヒントが散りばめられています。冒頭の小話でも将来を心配するお父さんと子供の小話にもいろいろ人生のヒントが、隠されています。私達も将来の安心より、今の娯楽を取ってしまうのではないでしょうか。私達も今はもちろん大事ですが、将来の行き先もしっかりと考えたいものです。お彼岸はご先祖参りとともに、自身の将来、自分自身も最後には阿弥陀様に救って頂く身であること。その為には南無阿弥陀仏とお念仏をお称えすることが勤めです。是非今年のお彼岸はお墓参り。もう一歩進んで本堂へのお参りをしてみませんか？

（法務部）

平成二十五年団体参拝

群馬・桐生　浄運寺

平成二十五年五月八～九日、恒例の団体参拝で群馬県を訪れました。今回の参拝先は桐生の浄運寺さん。桐生は奈良時代から織物で有名な町ですが、浄運寺はその桐生を代表する浄土宗寺院で、多くの貴重な寺宝を今に伝えています。また、翌日は水澤観音をお参り。そして、お寺のお参り前後にはあしかがフラワーパーク、富岡製糸場を訪れ、老神温泉に一泊という二日間の楽しい団参となりました。

表紙の写真を見て、「ここ行ってみたいわ」と思わず声が出た方がいらしたのではないでしょうか。

日本一の藤棚で有名なあしかがフラワーパークです。四月から五月が見頃とあって、ゴールデンウイーク過ぎでしたが、多くの藤見客で賑わっていました。

団体参拝旅行はお寺参拝の前後にこうした観光地やその土地の名物料理を楽しむのが、昔からのお約束。毎年五月頃に行われる梅窓院の団体参拝も同様です。参加される方は梅窓院の檀信徒である読者のみなさんのお仲間ですので、どうぞお気軽にご参加下さい。

運良く天気に恵まれ、高速道路から世界遺産に登録された富士山が見えました。

団体参拝は参加者全員でのお参りから始まりました。
中島住職が導師を務められ、詠唱も奉納されました。

さて、藤を楽しんだ後は桐生の名刹、浄運寺さんへ。浄運寺は開山となる玉念上人が結んだ草庵を起源としますが、永禄元年（一五五八）に哀愍寺というお寺になった時を開山としています。そして、第二世聞岌上人の時に浄運寺と改名し、現在地には慶長十年（一六〇五）に移転しています。移転時はちょうど桐生の新しい町づくりが始まった頃で、町の南北を神仏で護ろうと、町の北には天満宮を、そして南には浄運寺が据えられました。明治時代には浄運寺境内に桐生学校（現在の桐生市立北小学校）が創立されるなど、町とのつながりは深く、桐生市の指定重要文化財も少なくありません。

お寺の歴史や特徴を説明頂いた第三十二世　　上人から配られた資料は、「第十一回浄運寺寺宝展（市指定重文記念）」と題された、平成十一年に浄運寺本堂で一般公開された展覧会の展示品の一覧表でした。そこには1番の本堂から始まって107番の登高座まで、彫り物、仏像がずらりと並んでいました。また　　住職が晋山された時に寺報をまとめられた『浄運』の巻頭カラーには、創建以前に檀越（お寺や仏教を応援する人）から寄進された仏像、浄土宗にとっての貴重な資料、有名な作家の絵画が並んでいます。

宝歴3年（1753）に上棟された浄運寺本堂。浄運寺は創建以来455年、一度も火災にあったことがありません。

度重なる火災で寺宝がほとんど残っていない梅窓院には羨ましい限りですが、浄運寺にこれだけ寺宝が残っているのは、創建以来一度も火災に遭っていないからで、とても珍しいお寺なのです。

参拝後は一路宿屋へ。

こうした団参に参加される方は旅行好きな方も多いのですが、この温泉は初めてという方が多かったのが今回の老神温泉。入浴後の夕食ではひとしきり温泉談義に花が咲きました。

翌日は水澤観音参拝と世界文化遺産を目指す富岡製糸場へ。設立当時技術指導を受けたフランス人技師のお給料の話や、フランスから輸入されて現存するガラスに思わず感嘆の声が。

富岡製糸場を含む生糸関係の遺産が富士山に続く世界遺産登録となるといいですね。

初日の朝に訪れたあしかがフラワーパーク。満開の藤にみんな感動!
帰りは同パークに向かう車が大渋滞していました。

水澤観音は坂東三十三札所のひとつで天台宗水澤寺の本尊。1300年の歴史ある仏さまです。

本堂参拝後には境内地にある別棟の観音堂へ。
二階の釈迦堂に安置されている寝釈迦像にも手を合わさせていただきました。

風邪をおして案内してくれた浄運寺第三十二世住職。ありがとうございました。

世界遺産登録を目指す富岡製糸場。明治5年に操業開始し、フランスから技術者を迎えました。いまでも当時のフランスのガラスや工法、建物が残っています。

お檀家さんに寄進された内陣の格天井。草花などが描かれていました。

お参り後に　住職にも入って頂いての参加者全員の記念撮影。

お檀家さんに伺いました スペシャル

様

梅窓院の団参は普通のツアーにはない細やかな心遣いがあって毎年参加しています。それにお寺の団参ですから受け入れてくれる側も特別扱いしてくれている気がします。今回も浄運寺の住職が体調不良にも関わらずお話いただけて感謝です。でも素敵なお寺で、もっと住職の話を聞きたかったです。

老神温泉は初めてでしたが、清潔ないいお宿でした。お夜食にと用意されたおにぎり、お腹いっぱいで朝いただきましたが、嬉しい心遣いでした。

そうそう、二日目のお昼の水沢うどんはコシが強く噛むのが大変でした(笑)。

様

五月に訪れたのに、本堂に二台の業務用ストーブが置いてあり驚きました。その理由を伺ったら、まだ使う時があるとのこと!

団参のおかげで、その土地柄や気候風土を体験できました。また、ご住職のお話を聞けたり、お寺の歴史や佇まいや様々な仏像を知るなどの仏縁を頂けるなど、楽しみがとても多かったです。

また山里にある老神温泉はいいお湯でした。夕方到着し、翌朝宿を立つまでに五回も入りました。大き過ぎず、落ち着いた素敵な宿でした。

インタビュー

梅窓院を囲む人々

supporters of baisouin

九品寺　上人

今号もかつての梅窓院に住み込みながら勉強をしていた梅真会の方に登場頂きました。秋田は横手の名刹、九品寺（くほんじ）の　　住職です。藁谷梅窓院副住職と同じ昭和49年に入られて、同52年まで随身されていました。また、ご長男の　　九品寺副住職も大正大学卒業後の平成18年から同21年まで梅窓院に奉職、その弟さんで三男の津村祥徳上人は平成22年から同じく梅窓院に奉職し、現在も法務部でみなさんの法事で読経されています。そんな梅窓院と縁の深い津村住職の話を伺いました。

九品寺本尊と一緒に、向かって左から　副住職、　　住職、中島住職。

◆本日はよろしくお願い致します。

こちらこそよろしくお願い致します。

◆早速ですが、　　住職が梅窓院に随身されたきっかけは。

いやいやこれが急な展開だったのですが、建設会社のサラリーマンだった25歳の時、遠縁にあたる九品寺の跡継ぎ話が持ち上がりましてね。当時の住職は　　といいまして、住職をされながら横手市の市会議員や福祉関係の要職に就いていて、とても弟子となった私を育てている時間がない。そこで、普通のサラリーマンである私をお坊さんにしてくれるお寺がないものか、と親しかった東京の浄土宗のお寺の住職に相談されたのです。

◆何か本当にいきなりの話のようですが、　　住職は何人兄弟ですか。

八人兄弟の末っ子で五男でした。一番上の長兄とは親子ほどの年の差があります。

◆そうですか、男兄弟が多かったのですね。それで、先代はどなたに相談されたのでしょう。

笹塚にある清岸寺さんです。

◆笹塚の清岸寺さんだと　　さんですね。今の　　住職には梅窓院の法類を務めてもらっています。

そうですか、その　　住職の御尊父、先代の　　住職がうちの先代住職と親しかったようです。

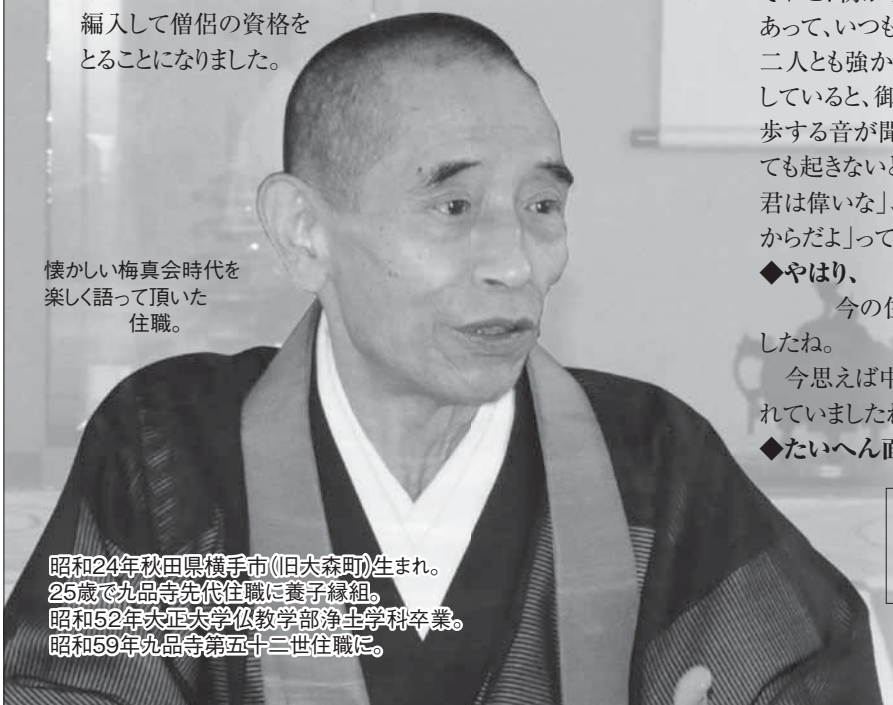
その先代　　住職が梅窓院を紹介してくれたようで、話はトントン拍子に進みました。

◆秋田の普通のサラリーマンが一転、東京で坊さん修行、確かに急転直下の展開ですね。

はい（笑）。

◆会社を退社され大正大学に入学、梅窓院に随身されたのですか。

いやいや、在家ですし、すでに私は秋田経済大学（現ノースアジア大学）の経済学部を卒業していましたから、まず一年間僧侶見習いとして随身して、二年目から大正大学に三年編入して僧侶の資格をとることになりました。



懐かしい梅真会時代を楽しく語って頂いた　　住職。

昭和24年秋田県横手市（旧大森町）生まれ。
25歳で九品寺先代住職に養子縁組。
昭和52年大正大学仏教学部浄土学科卒業。
昭和59年九品寺第五十二世住職に。

◆梅真会のほとんどが、お寺生まれの跡取りで高校を卒業して大正大学に入学。同時に梅窓院に随身というコースですから、　　住職はとても珍しいケースですね。

はい、かなり特別でした（笑）。

面白いエピソードのひとつですが、まだ僧侶になる前でしたが、どうしても手が足りず、私が枕経に行くことになったのです。その私に先輩から電話がはいって、

「　　よく聞け。枕経というのは、迎えの小型トラックが来るから、その荷台に乗って太鼓を叩きお経を唱えながら行くのだぞ」。

お寺とは全く無縁のうえに初めてのこと、しかも先輩の言葉ですから信じますよね。でも迎えのトラックがなかなか来ない。そこで、方丈さん（先代真哉住職）に、「トラックが来ないのですが。またトラックの荷台ではどんなお経をあげればいいでしょうか」と聞いたら、しげしげと顔を見られて「お前はバカか」と言われました。でも、その後に方丈さんから枕経のお経を教えてもらい、初めての実践での読経を無事済ませられました。

◆トラックの荷台で読経とは洒落が効き過ぎですね。どなたですか。

さあ、誰でしょう。この梅真会シリーズできっと会えますよ（笑）。

◆学校へ通わない一年間の生活はどんなものだったのですか。

私以外の随身五人はみんな大正大学通いですから、昼間は毎日一人で電話番です。電話は多かったですが、だからといって四六時中ではありませんから、手が空けばお経の練習をしていました。

◆なんだか孤独で大変そうですが。

本人は必死でしたから、そう思いませんでしたね。でも、同室だった藁谷上人が、「昼間はいつも　　さんだけで不公平だから何とかしよう」と言ってくれました。

◆そうですか、藁谷副住職、今でも優しいですよ。

嬉しかった思い出ですね。

それと、朝から学校へ行かなくていい僕はお酒が飲めることもあって、いつも方丈さんご夫婦のお酒の相手をしていました。お二人とも強かったですからね。で、飲んだ翌日の朝当番を寝坊していると、御前さん（先々代真孝住職）がステッキをついて散歩する音が聞こえて……。御前さんがそれを二、三回繰り返しても起きないと、「　　君」と起こしてくれる。そして、「　　君、君は偉いな」、「どうしてですか」、「そりゃ、私に起こしてもらえるからだよ」って（笑）。

◆やはり、　　住職は特別ですね。

今の住職の妹さんの忘れ物もよく小学校に届けていましたね。

今思えば中島家のみんなが「　　君、　　君」って言ってくれていましたね。

◆たいへん面白いお話、ありがとうございました。

九品寺
横竪山西光院九品寺（おうしゅざんさいこういんくほんじ）が正式名称。創建が千二百年代で秋田の浄土宗寺院では最古の名刹。

青山散歩道

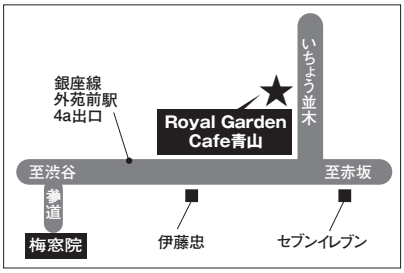
Royal Garden Cafe

ロイヤルガーデンカフェ

今回は外苑前いちょう並木通りの入り口の「Royal Garden Cafe 青山」をご紹介致します。

お料理は〝目に見える安心・安全〟をテーマに産地直送の新鮮な野菜を中心としたメニューで、ランチセットは平日が千円～、休日が千六百円～で、お肉料理・ピッツアランチ・サンドイッチランチ・パスタランチなどの週替わりメニューを頂けます。また、店内には自家製パンのベーカリーコーナーがあって、このパンだけを買いに来る常連のお客様も多いとか。

地域に密着した情報発信をコンセプトとして、近隣企業とのタイアップイベントの定期開催、またテレビドラマやCMのロケ地にもなっている。とにかくロケーションは抜群!! これからの季節、墓参のお帰りの際にテラス席でいちょう並木を眺めながらお食事されてみてはいかがでしょうか？



営業時間／11:00 ～23:00(L.O 22:00)
[ランチタイム] 11:00～15:00
定休日／年中無休
席数／1F:116席(内テラス席56席)2F:64席
住所／東京都港区北青山 2-1-19
TEL／03-5414-6170

▲有機野菜を使ったビーフシチュー

▼緑溢れる開放的なテラス

青山俳壇

選者『ウエップ俳句通信』編集長 **大崎 紀夫**

◎特選

○独り居にほほづき色の夏の月

◎入選

○菩提樹の広げし枝や梅雨に入る

○通し土間持つ古民家や若葉風

○昼寝覚め雨垂れの音ふたつあり

○滴りは水かけ不動の鼓動なり

○日の暮れの星を眺めて涼みけり

○邯鄲や高尾の山に風の立ち

○半夏生蛸とうどんを食うべけり

○待ちわびしさくらんぼいま目の前に

◎選者詠

○麦笛の二三流れへ放らるる　　大崎　紀夫

〈ワンポイントアドバイス〉

「継続は力」という言葉がありますが、俳句の場合でもいちばん大切なのは継続することです。長くやっていると、自ら俳句の奥深さ、いい知れぬ魅力というものが分かってくるようです。そして調べの大切さも。選句をしていますと、時おり、中七が字余りになっている句がありますが、これらの句は声を出して読んでみると、どこかにひっかかりが生じます。わたしの場合、上五は字余りでも結構。しかし中七下五はきっちり決めたいものだ、といつもいっています。

投句募集

次回は「秋の季語」でご自由にお詠み下さい。10月31日を締切、平成26年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。皆様の投句をお待ちしております。

〒107-0062　港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡ください。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

第五十二回

食は命なり

食養研究家 **武 鈴子**

お彼岸と小豆

お彼岸といえば、お萩と牡丹餅。お餅に甘く煮た小豆あんがまぶしてあるのはどちらも同じ。ただ春の牡丹餅はこしあん、秋のお萩は粒あんというのが定番のようです。

秋のお彼岸は、小豆の収穫期とほぼ同じころで、採れたての小豆は皮も柔らかい。それで皮も一緒につぶして使うので、粒あんができます。春のお彼岸に利用する小豆は、冬を越したものを使うことになり、皮は固くなっています。そのため皮ごと使うと食感が悪くなるので、皮を取り除いた、こしあんが用いられました。

小豆は、米とともに炊いてお赤飯や小豆粥にしたり、あんに作ってお餅や団子につけ、お菓子の材料に用いられるなど応用範囲がとっても広い食材です。1月15日の小正月に小豆粥を食べる習慣は古くからあり、江戸時代は、「米1升に小豆4升、塩少々を加えてお粥を炊き、夏の日は、きっちりフタができる器に移して井戸に吊るして冷まし、砂糖をかけて食べたと記載されています。(『江戸料理事典』)

薬膳では、尿の出が悪いとき、小豆1:水4の割合で小豆を煮て、その煮汁に自然塩を少し加えて飲むレシピがあります。排尿を促す食養生です。

小豆は漢方では、熱を冷まし、体内の余分な水分を除いて、むくみをとる効能があり、腎炎や脚気、栄養障害にみられるむくみ、下痢、下血、黄疸などに用いられる薬効高い食材です。

行事予定

秋彼岸会法要

9月23日(月)
寄席　午後1時～　祖師堂
法要　午後2時～　祖師堂
※詳しくは3面をご覧下さい。

第60回 念仏と法話の会

10月10日(木)
受付開始　午前10時半～
お斎(そば)／別時念仏会／法話／茶話会
講師　秋田教区 九品寺
　　津村信徳上人
※詳しくは別紙チラシをご覧下さい。

文化講演会

10月19日(土)
開場 午後2時15分　祖師堂
開演 午後3時 ～
【講師】
生島ヒロシ氏(フリーアナウンサー)
入場料／無料／先着300名

M・ファン・デン・フックピアノリサイタル

11月10日(日)
開場 午後2時15分　祖師堂
開演 午後3時 ～
入場料／檀家2,000円・
一般5,000円／先着300名

発　　行／梅窓院
発 行 日／平成25年9月1日
発 行 人／中島 真成
編　　集／青山文化村
住　　所／〒107-0062
　　東京都港区南青山2-26-38
電　　話／03-3404-8447
F A X／03-3404-8436
ホームページ／http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail／jodo@baisouin.or.jp
題　　字／中村康隆元浄土門主
　　総本山知恩院第八十六世門跡

梅窓院より会計のご報告

昨年度より会計報告を、本紙に掲載させて頂いております。ご確認を宜しくお願い致します。

平成24年度会計報告

自　平成24年4月 1 日
至　平成25年3月31 日

■護寺費・年会費・墓地管理費　(単位：千円)

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	74,164	浄土宗課金及び大本山宛志納金	3,168
		法要費(仏具・法衣・線香など)	32,173
墓地管理費として	28,659	修繕費(建物)	35,716
		修繕費(墓苑・境内)	9,383
梅窓院からの繰入金	11,044	人件費	25,321
		事務費(郵送費・コピーなど)	8,106
合　計	113,867	合　計	113,867

平成25年度 後期 仏教講座のご案内

梅窓院では10月より平成25年度　後期　仏教講座を開講します。講師は前期より引き続き、阿川先生、新井先生、勝崎先生、林田先生、本林先生の5名でお送り致します。どうぞお気軽にご参加下さい。　全講座▶午後6時～8時　受講料▶無料　場所▶祖師堂

講　題／続々・お経を読む
講　師／**阿川 正貫 先生**(浄土寺住職、大正大学講師)
- 第1回… 10月28日(月) 善導大師の『往生礼讃』より①
- 第2回… 12月11日(水) 善導大師の『往生礼讃』より②
- 第3回… 3 月 3 日(月) 善導大師の『往生礼讃』より③

講　題／釈尊の最後の教え —『仏遺教経』を読む—
講　師／**新井 俊定 先生**(天然寺住職)
- 第1回… 11月28日(木)『仏遺教経』1
- 第2回… 1 月28日(火)『仏遺教経』2
- 第3回… 3 月 6 日(木)『仏遺教経』3

講　題／大乗仏教を読む
講　師／**勝崎 裕彦 先生**(大正大学学長、香蓮寺住職)
- 第1回… 12月 5 日(木) 従地涌出品第十五の教え
- 第2回… 1 月 9 日(木) 如来寿量品第十六の教え
- 第3回… 2 月20日(木) 常不軽菩薩品第二十の教え

講　題／法然上人のみ教え —『選択集』を読む—
講　師／**林田 康順 先生**(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)
- 第1回… 11月18日(月)『選択集』第7章　救いの光① —三業相応—
- 第2回… 1 月20日(月)『選択集』第8章　救いの光② —三縁—
- 第3回… 2 月12日(水)『選択集』第8章　三つの心① —至誠心—

講　題／地域社会と真宗 —生活に生きる信仰と儀礼—
講　師／**本林 靖久 先生**(真宗大谷派僧侶、大谷大学、佛教大学講師)
- 第1回… 10月 4 日(金) 女性門信徒の役割
- 第2回… 12月 6 日(金) 土徳と郷土の形成
- 第3回… 2 月 7 日(金) 無墓制と納骨信仰 ※詳細は同封のご案内をご覧ください。

お檀家さんに伺いました

「お施餓鬼会の魅力」
様
大勢のご僧侶にお会いでき、お話を伺えることがお施餓鬼の魅力だと感じます。いつものお墓参りよりもご僧侶とお話する機会があり嬉しく思います。先程もいつも親しくして頂いているご僧侶(西沢上人)が声をかけて下さいました。

「大施餓鬼会法要の魅力」
様
大施餓鬼会法要は大勢の僧侶の方がいらっしゃって豪華に感じます。法要の時に撒く散華もきれいで、雅楽も魅力的です。

インタビューにご協力頂いた皆様、誠にありがとうございました!